



2021(令和3)年3月18日発行

編集・発行 福島県立図書館

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

Te1 024-535-3218

Fax 024-536-4787

<https://www.library.fcs.ed.jp/>

令和3年3月11日から再開館いたしました！

2月13日深夜に発生した地震のため、臨時休館をしておりましたが仮復旧工事を完了し、再開館いたしました。臨時休館中ではご不便をおかけいたしました。最終的な復旧工事が完了するまでは、一部のエリアの利用を制限しております。ご不便をおかけしますが、ご理解くださいますようお願いいたします。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止に関するお願い及び利用制限についても引き続きご協力をお願いいたします。



あれから10年 東日本大震災関連展示

【期間】令和3年3月11日から3月31日まで

東日本大震災ブックガイド

【場所】公開図書室センターホール

当館職員が震災後から紹介し続けてきた東日本大震災復興ライブラリーのブックリスト(紹介図書数222冊)と資料を展示、貸出します。

空中写真で振り返る 東日本大震災

【場所】展示コーナー

当館で所蔵する福島県沿岸を撮影した空中写真の中から、津波被災地域の震災前後の写真等を展示します。

被災地図書館震災アーカイブ 企画展巡回展

【場所】ロビー展示

東日本大震災アーカイブワークショップによる、仙台で開催される企画展の巡回展として、各機関の紹介や各機関の震災資料コーナーの書架のポスターを展示します。

展示情報

~5月5日 【雑誌展示コーナー】 「いざという時のために」

~5月5日 【軽読書コーナー】 「土に親しむ」



~3月31日 【子育て支援コーナー】 「虫の絵本」



~3月31日 【こどものへや・絵本コーナー】 「花の絵本」



最新情報

この度、障がい者サービスカウンターを開設しました。場所は、調査相談カウンター裏の自然公開エリアです。プライバシー配慮のためパーテーションを設置しています。



新着案内

各分野の担当者が選んだ、お薦めの新着資料をご紹介します。

人文・自然・社会

『アメリカのブラックアウト変遷史』デビッド・E・ナイ／著 オーム社 2020.2 540.93/ナ 202

本書はアメリカにおける停電を多角的に分析しています。その理由についても災害などによる意図しない停電だけでなく、計画停電・テロによる停電・環境活動家による意図的な停電（グリーンアウト）が扱われます。また社会的時間の流れの中断としてとらえることで、停電という体験の意味とその変遷をミシェル・フーコーによる「ヘテロトピア」（混在郷）という概念も援用しながら論じます。筆者の記憶にある停電は10年前の3月11日です。街灯の消えた仙台の街で、星だけが明るく雪がちらちらと舞いだしたことを思い出します。

『日本印刷文化史』凸版印刷株式会社印刷博物館／編 講談社 2020.10 749.21/イ 20X

日本において、奈良時代に天皇の発願により『百万塔陀羅尼』が印刷されたことから始まる印刷技術は、情報を速く広く伝えるために重要な役割を担い続けています。例えば、江戸時代に高まった出版・印刷技術が当時の教育・学問を発展させる上で欠かせなかったように、戦時中に、戦意高揚のため大量のプロパガンダ・ポスターが製作されたように、印刷技術の発展は社会の情勢と切っても切れない関係にあります。印刷技術の変遷と併せて、印刷史という側面から、日本の歴史を辿ることのできる一冊です。

『シリアで猫を救う』アラー・アルザリール with ダイアナ・ダーク／著 大塚敦子／訳 講談社 2020.10 302.275/ア 20X

2011年3月、日本から遠く離れたシリアで内戦が起きました。その激戦地アレッポに住むアラー・アルザリールは、自前の救急車を用いて救助ボランティアを行うと共に、市街に置き去りにされた猫たちを保護する活動を始めます。

本書には、元は一介の電気技師だったアラーが、戦火の混乱の中、もっとも弱い立場のものたちを守るために苦闘を続ける様子が克明に描かれています。日本からは遠く離れたシリアですが、そこで生きているのはわたしたちと同じ普通の市民であり、動物たちであることを感じます。

児童・児童図書研究

『世界の児童文学をめぐる旅』池田 正孝／著 エクスナレッジ 2020.10 J909.3/イ

著者は長年にわたり、イギリスを中心に児童文学作品の舞台を訪れて写真を撮り、それらに解説を加えてスライドショーをする、という活動をしている方です。本書では『ピーターラビットのおはなし』や『不思議の国のアリス』のモデルとなった場所等がその写真とともに紹介されています。より具体的なイメージを持って原作を読んでも面白そうです。

雑誌・新聞

東日本大震災から10年が経過しました。節目の年ということもあり、雑誌に特集記事が掲載されています。年月が経ったからこそ語れることやこれからに向けてなどの情報が掲載された雑誌をご紹介します。

『家の光』第97巻第3号, 2021.3号, Z/051/I2
特集1:東日本大震災から10年 きずなの力語り継ごう、これからも

『現代思想』第49巻第3号, 2021年3月号, Z/105/G1
特集:東日本大震災10年

『教育旅行』第69巻第3号, 通巻778号,
2021年3月号, Z/374.4/N3/2-
特集:東日本大震災から10年 東北各県の新しい教育旅行プログラム

『月刊金融ジャーナル』第62巻第3号, 通巻782号,
2021年3月号, Z/338/K3
第II特集:震災10年

『科学』第91巻第3号, 通算1063号, 2021.3月号,
Z/405/K2
特集:原発事故下の10年—継続する論点

地域

『誰が命を救うのか
原発事故と闘った医師たちの記録』
鍋島 塑峰／著 論創社 2020.9 LS493.19/N11/1

福島第一原発事故発生直後の現場で除染・医療などにあたる医師たちのノンフィクションです。被ばく医療という前例の無い状況の中、医療スタッフたちは何を考え、どう動いたのか。情報もなく、指揮系統も崩壊する現場で「命を救う」ために奔走する様子が克明に記されています。

東日本大震災から十年が経つと同時に、コロナ禍という驚異の降りかかる今、医療と災害について考えさせられる一冊です。

『いわき発・歳月からの伝言 過去から未来へいわき地方の生活記録史 1 あ〜お』おやけ こういち／著 歴史春秋出版 2020.10 L218/011/1-1

いわきにおける20世紀の100年間を、人々の生活や風俗、文化の視点から振り返る資料です。『いわき民報』紙上で平成12(2000)年1月から12月に行った連載をもとに、第1巻は「アイスクャンデー、かき氷」から「オートバイ」までの27項目について、豊富な写真や新聞記事とともに紹介しています。身近な暮らしがつくる歴史の記録に惹きつけられます。